

新古典派モデルと呼ばれる標準的な経済モデルの規範経済学の分析では、危険ドラッグでさえ市場取引に任せて規制をすべきでないという市場取引と経済効率を重視する結論が導かれることが多くなり、このことから経済学は心を無視しているという印象を与えがちです。

しかし、このような結論が出るのは現在の規範経済学は効用(満足度)が高いことをよしとする純粋な厚生主義とい

やさしい こころと**経済学**

第2章 倫理観・価値観と絆

慶応義塾大学教授 大垣 昌夫

う倫理観を使って分析するためです。新古典派経済モデルでも、別の倫理観を用いると、危険ドラッグは規制すべきだ、という別の結論が出ることを説明したいと思います。

のなかで厚生主義(主として功利主義)の他にいくつか代表的な倫理理論を挙げていきます。一般的に三大倫理理論は、厚生主義のように行動の動機や決定プロセスを問題にせず、帰結だけを問題とする帰結主義、義務論、徳倫理理論といわれます。

義務論は効用ではなく、誰

用いる概念で結論に差

をも尊重すべきである」というような倫理的義務を倫理観の中心に据えます。行為の結果よりも、動機という心の問題が重視されるのです。

サンデルが最も推奨するのが徳倫理です。徳倫理は、節制や勇気などの道徳的美徳を身につけて、共同体に貢献することを善とします。

徳倫理の倫理観を使ってドラッグの規制をすべきかどうかを考えてみましょう。一般に経済学で用いられる厚生主義の幸福概念は、消費と余暇に基づく効用です。中毒性のあるドラッグからの効用が高まることも、社会的に善いこととなります。

これに対し、徳倫理の幸福概念は、自分の人格を磨いて共同体に貢献する際の充実感(エウダイモニア)です。ドラッグは効用を高めるかもしれませんがエウダイモニアは低くするので、純粋な徳倫理の倫理観ではドラッグ規制は社会的に善いこととなります。